

Japanese Utility Model Application Laid-Open No.S61-20873

Publication Date: February 06, 1986

Applicant: Takigen Seizo Kabushiki Kaisha

**BEST AVAILABLE COPY**

開実用 昭和61-20873

⑯日本国特許庁 (J P)

⑯実用新案出願公開

⑯公開実用新案公報 (U)

昭61-20873

Int. Cl.  
E 05 C 19/14

識別記号

厅内整理番号  
7444-2E

⑯公開 昭和61年(1986)2月6日

審査請求 有 (全頁)

⑮考案の名称 締付仮錠装置

⑯実 願 昭59-104691

⑯出 願 昭59(1984)7月11日

⑮考案者 高橋 哲夫 東京都品川区大井6丁目11番5号

⑮考案者 三谷 正志 東大阪市御厨北の町12番地

⑮出願人 タキゲン製造株式会社 東京都品川区西五反田1丁目24番4号

⑮代理人 弁理士 増田 守

BEST AVAILABLE COPY

### 明細書

## 1. 考案の名称

## 締付板綻装置

## 2. 実用新案登録請求の範囲

被緊締体の一方Aに固着され、両側部に垂直壁1a, 1bを設けた取付基板1と、該取付基板1に基端部を枢着され、一方の側壁部に銃止口23を設けた操作レバー2と、該操作レバー2に基端部を枢着された弾性アーム部材3と、該アーム部材3の先端部が引掛けられる折曲げ部4aを有し、被緊締体の他方Bに固着される受金板4とから成り、前記取付基板1の一方の垂直壁1aに設けた長孔5を貫通し、他方の垂直壁1bの透孔6に嵌合されたロックピン7を、前記操作レバーの銃止口23に係合させる締付仮銃装置。

### 3. 考案の詳細な説明

### (産業上の利用分野)

本考案は、被累縫体の一方に固着される取付基板と、該取付基板に枢着された操作レバーと、操作レバーに枢着された弾性アーム部材と、該アーム部材に接続される操作部材とを有する。

ム部材の先端部が引掛けられる折曲げ部を有し、被緊締体の他方に固着される受金板とから成る締付仮錠装置に関するものである。

(従来の技術)

この種の締付仮錠装置では、締付時において、取付基板と操作レバーの枢着部の位置が操作レバーと弾性アーム部材の枢着部の位置から緊張力の働く軸線に対して、やや被緊締体より遠ざかる方向にずれているため、該装置締付時には、緊張力は操作レバーを取付基板に圧接する方向に作用し、締付が解かれることはない。

(考案が解決しようとする問題点)

しかしながら、実際の使用状態では、被緊締体の震動や衣服の操作レバーへの引掛け等によって、操作レバーが回動し、弾性アーム部材の先端部と受金板との係合が偶発的に解除されてしまうことがあった。

従って本考案の目的は、被緊締体の締付時において容易に操作レバーが回動することがなく、弾性アーム部材の先端部と受金板との係合が強固に

維持される締付仮錠装置を提供することである。

(問題点を解決するための手段)

以下、添付図面中の参照符合を用いて説明すると、本考案の締付仮錠装置は、被緊締体の一方Aに固着され、両側部に垂直壁1a, 1bを設けた取付基板1と、該取付基板1に基端部を接着され、一方の側壁部に錠止口23を設けた操作レバー2と、該操作レバー2に基端部を接着された弾性アーム部材3と、該アーム部材3の先端部が引掛けられる折曲げ部4aを有し、被緊締体の他方Bに固着される受金板4とから成り、前記取付基板1の一方の垂直壁1aに設けた長孔5を貫通し、他方の垂直壁1bの透孔6に嵌合したロックピン7を、前記操作レバーの錠止口23に係合させるものである。

(実施例)

図示の実施例では、取付基板1は下方へ曲折しており、水平部には複数の接着孔8が設けられており、該接着孔8を通るボルト9及びナット10によって被緊締体Aに接着される。操作レバー2

は金属板を折曲げ成型した上面部 2 a と、前端面部 2 b と、2 つの側面部 2 c, 2 d とから成っており、前端面部 2 b 下部と側面部 2 c, 2 d は溶接されている。

錐止口 2 3 は、操作レバー後端部方向に曲折し、垂直壁 1 a の長孔 5 とほぼ同形の水平部 2 3 a と、ロックピン 7 の摺動に必要な幅を持った垂直部 2 3 b とを有する。操作レバー 2 の基端部には、側面部 2 c, 2 d の前下端部と前端面部 2 b によって切欠孔 1 1, 1 1 が形成されている。これら切欠孔 1 1 には、取付基板の基端部に設けた突起 1 2, 1 2 が嵌合され、これによって操作レバー 2 と取付基板 1 が接着されている。

取付基板 1 の邪魔突子 1 3, 1 3 は切欠凹部 1 4, 1 4 に当接して、締付時に取付基板 1 が操作レバー 2 内へ退入することを阻止している。また、左右側面部 2 c, 2 c を貫通して枢軸 1 5 が設けられ、該枢軸 1 5 の両端に弾性アーム部材 3 を固着している。

弾性アーム部材 3 は、枢軸 1 5 に嵌合固着され

る左右一対の固定片3a, 3aと、先端部に円筒16を設けた左右一対の摺動片3b, 3bと、圧縮コイルバネ17, 17とから成る。各圧縮コイルバネ17は、前記固定片3aと摺動片3bとに挿通され、固定片3aのストッパー18と摺動片3bのストッパー19とに挟まれている。弾性アーム部材3の先端部に緊張力が働くと、摺動片3b, 3bが引張方向に摺動し、圧縮コイルバネ17, 17が圧縮されて弾性力が働く。

受金板4は図着孔20を通りボルト21及びナット22によって被累縫体Bに図着される。受金板4は金属板の折曲げ成型によるものであり、折り曲げ部4aはアーム部材3による引張り方向に對して凹面を形成する様に湾曲している。またロックピン7は一端を垂直壁1bの透孔6に回動可能に嵌合し、他端を垂直壁1aの長孔5から突出させている。

(作用)

操作レバー2を倒伏し、アーム部材3と受金板4間に緊張力を働かせている時、長孔5から突出

したロックピン7を、操作レバー2後端部方向に摺動させて、銃止口の水平部23aに係合させると、操作レバー2になんらかの外力が働いても、操作レバー2は上方へ回動不能となる。従って弾性アーム部材3の先端部と受金板4の係合が維持される。解銃時には、ロックピン7を操作レバー2前端部方向に摺動させればよい。そうするとロックピン7が銃止口の垂直部23bに当接するので、操作レバー2は上方に回動可能となり、弾性アーム部材3と受金板4の係合が解かれる。

#### (考案の効果)

以上のように本考案の締付板銃装置では、取付基板1の一方の垂直壁1aに設けた長孔5を貫通し、他方の垂直壁1bの透孔6に嵌合させたロックピン7を、操作レバーの側壁2cの銃止口23に係合させたので、締付使用時に外力の作用によって偶発的に操作レバー2が上方に回動して、弾性アーム部材3の先端部と受金板との係合が解除されることはなく、強固な係合を維持できるのである。

更に本考案では、ロックピン7に抜止め片26を設けて、ロックピン7の長孔5からの抜脱を防止していると共に、取付基板1に固定ピン24を設け、該固定ピン24とロックピン7間にバネ25を設けてロックピン7の先端を操作レバー2の後端部方向に付勢したので、ロックピン7の動きが阻止され、本装置のロック機能が一層強固になっている。

#### 4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示し、第1図は締付板錠装置の施錠状態の右側面図、第2図は該装置の取付状態の正面図である。第3図は該装置の内部構造を示す要部切断正面図であり、第4図は該装置の解錠状態の右側面図である。

1…取付基板、2…操作レバー、3…弾性アーム部材、4…受金板、5…長孔、6…透孔、7…ロックピン、11…切欠孔、12…突起、13…邪魔突子、14…切欠凹部、15…枢軸、16…円筒、17…圧縮コイルバネ、18、19…ストッパー、23…錠止口、24…固定ピン、25…

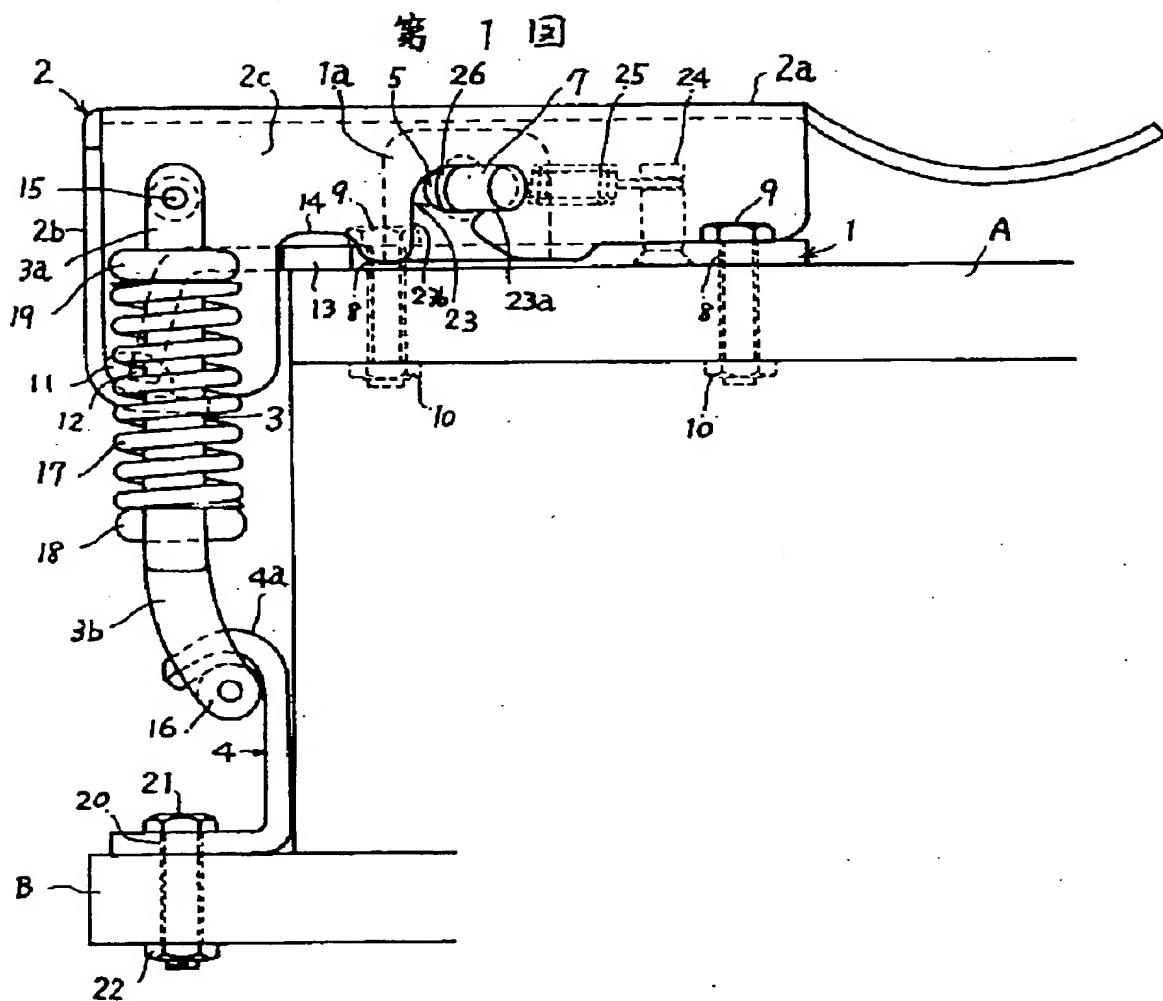
バネ、26…抜止め片

実用新案登録出願人

タキゲン製造株式会社

代理人 弁理士 増田 守

公開実用 昭和61-2073

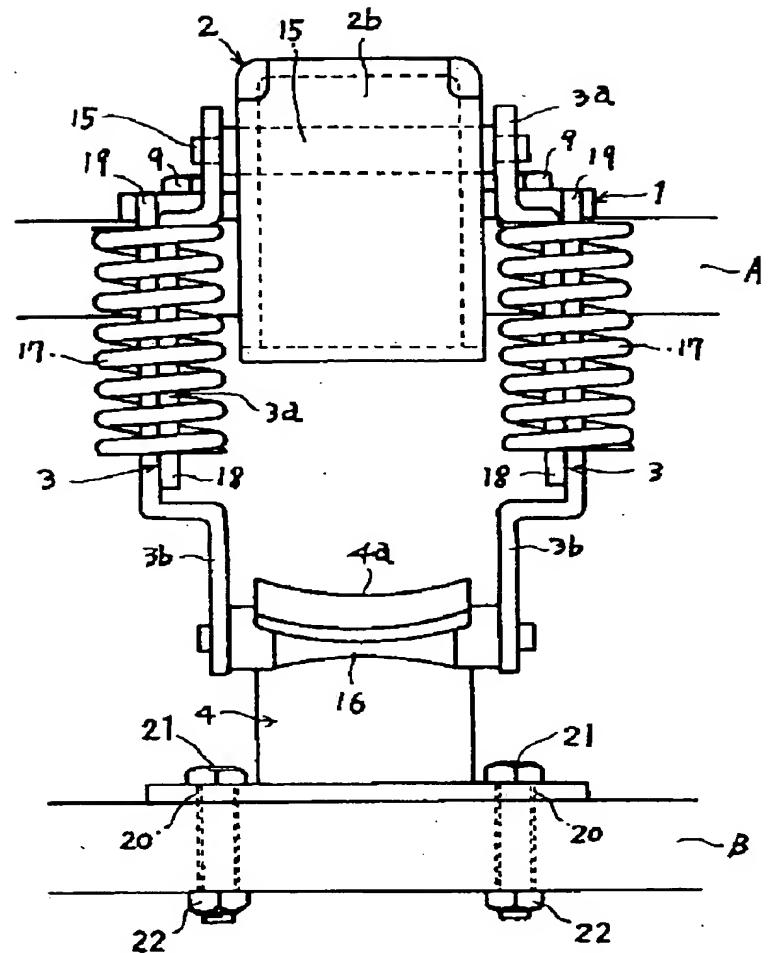


628

61-20873

**BEST AVAILABLE COPY**

第 2 図

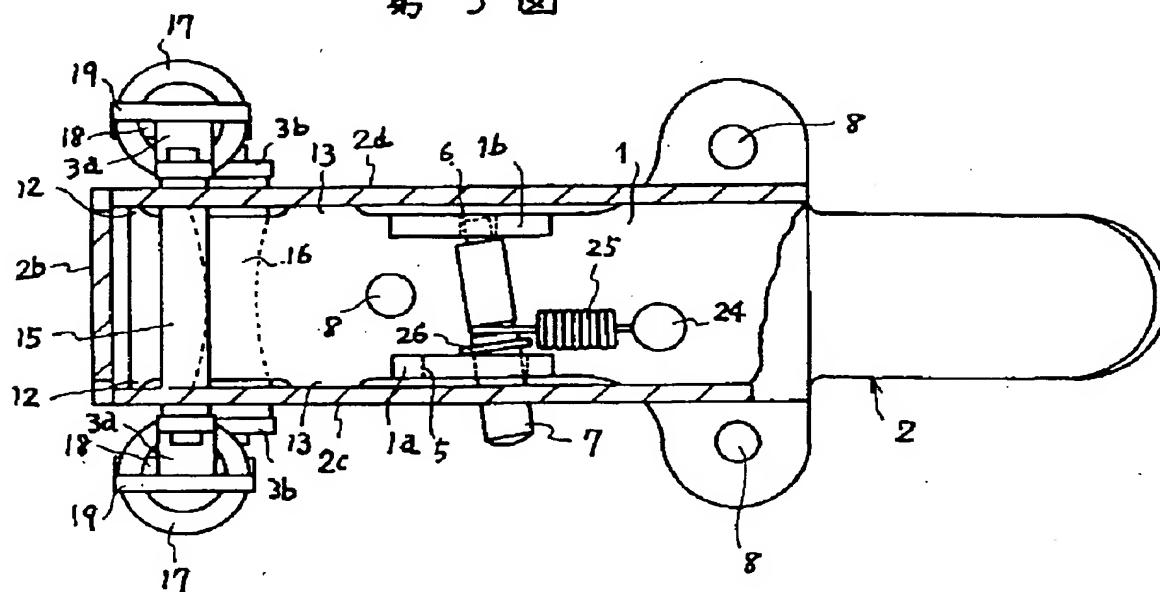


629

1961 10073

BEST AVAILABLE COPY

第3図

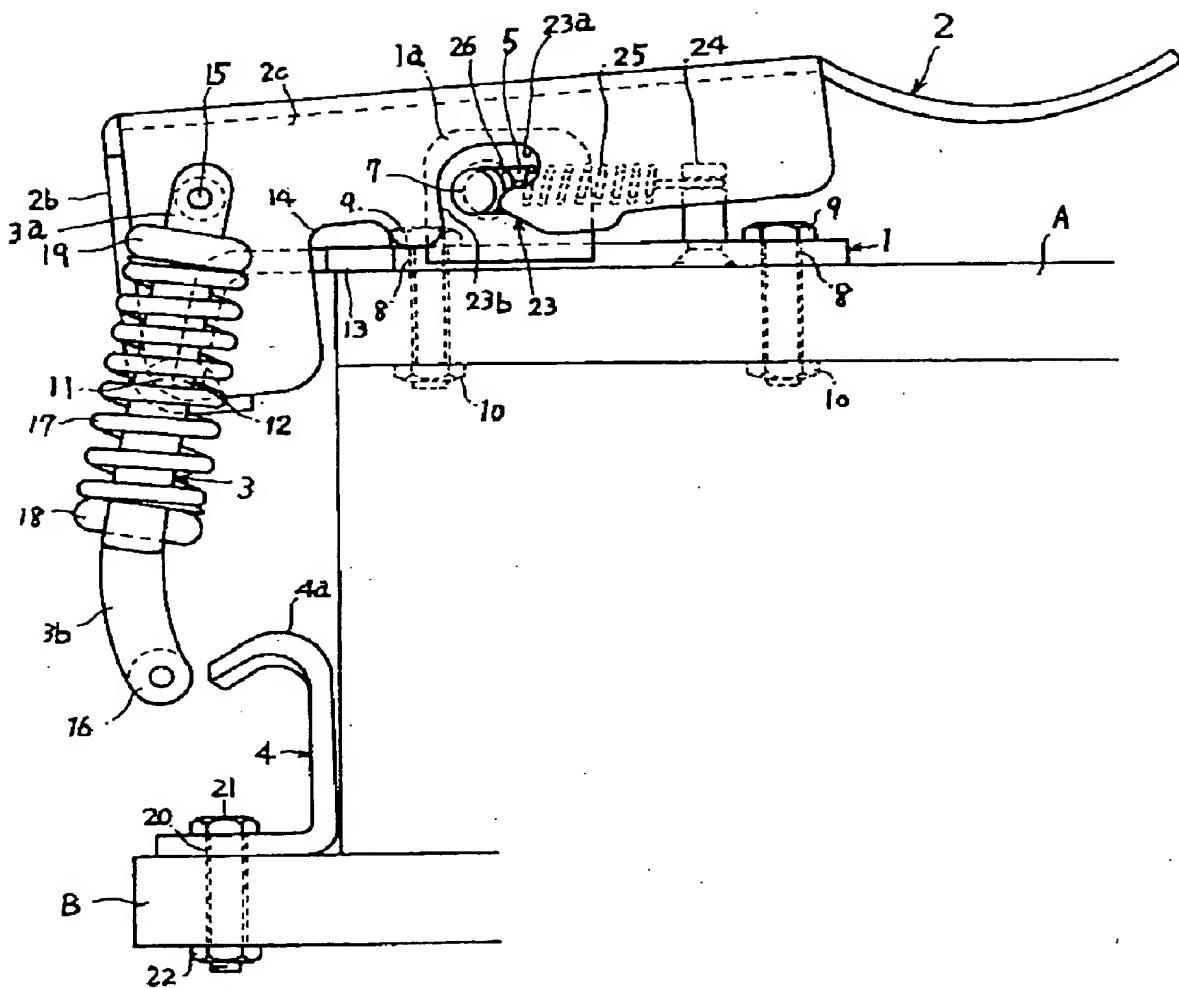


630

実用61-20873

BEST AVAILABLE COPY

#### 第 4 図



人顧出銘鑄案新用實  
タキケン製造株式会社  
守田因增士理并人代理

631

1. 61-20873

**BEST AVAILABLE COPY**